

第2章

助動詞

時 制の延長線上の話として大切なのが〈助動詞〉である。〈助動詞〉の中には、**can**や**will**などのように、〈近い形〉(＝現在形)と〈遠い形〉(＝過去形)を持つものがあるからだ。この場合も〈過去形〉ではなくて、敢えて〈遠い形〉と呼ぶことには意義がある。いや、むしろこの〈助動詞〉を正しく理解するために〈近い〉〈遠い〉という概念が必要だとも言える。

例えば、**could**や**would**を単に**can**や**will**の過去形で過去のことを表すと思っていないだろうか。もちろん、**could**や**would**が過去を表す場合もあるだろうが、少し英文法をかじったことのある人なら、仮定法という可能性もあることをご存知だろう。そして、英文読解においても、**could**や**would**が出てきたら、過去なのか仮定法なのか判断しなければならない。その判別法の頂点として、受験英語界では「助動詞の過去形を見たら仮定法を疑え」という標語もあるくらいである。この標語の意味するところは十分に理解できるが、このような不思議な言い方になってしまうのはすべて、〈過去形〉という文法用語の不備にある。そこを是正したのが〈遠い形〉という呼び名である。話を戻すが、**could**や**would**は必ずしも過去を表すとは限らないのである。このことは、英訳の際にも十分気をつけなくてはならない事柄である。

また、**should**や**might**に至っては、**shall**や**may**の過去形ととらえない方がよいのではないかという感さもある。**should**と**might**はもう独立した一人前の助動詞であると言ってよい。この言葉の意味することは何であろうか。

これ以外にも、**must**と**have to**の違い、**should**と**had better**の違い、**must**＝「～に違いない」、**may**＝「～してもよい」という訳語から来る勘違い、使えそうでなかなか使えない**used to**という助動詞など、助動詞も英作文では極めて重要な役割を担っている項目である。この章では、従来の文法教育では問題が残る事柄を中心に助動詞を再検証しよう。

● 文法運用力チェック ●

- 1. **could**＝「～できた」だと思っていないか？ ⇨ §31
- 2. 「～せざるを得ない」＝ **cannot help doing**だと思っていないか？
⇨ §32
- 3. **must**＝**have to**と思っていないか？ ⇨ §32
- 4. **I must go.**と**I must be going.**の違いがわかるか？ ⇨ §32
- 5. 「～に違いない」を**must**で訳していないか？ ⇨ §33
- 6. 「～かもしれない」という日本語を何でも**may**で訳していないか？
⇨ §34
- 7. **might**を**may**の過去形だと思っていないか？ ⇨ §35
- 8. 「思っているほど難しくない」の英訳で、**not as difficult as sb might think**のように、**might**が入るわけは？ ⇨ §35
- 9. 「～した方がいい」という日本語だけで**had better**と訳していないか？ ⇨ §37
- 10. 「昔」という日本語から**used to**がひらめくか？ ⇨ §38
- 11. **used to**と〈過去の習慣〉を表す**would**を使い分けられるか？ ⇨ §38
- 12. 代動詞の**do**や**do so**を正しく使えるか？ ⇨ §39